

「医療コーチングワークブック 対話的コミュニケーションのプラットフォーム」〈1版1刷〉をご購入いただきまして誠にありがとうございます。本書に以下の誤りがございましたので、ここに訂正・加筆させていただきますとともに深くお詫び申し上げます。

81頁 表2

[2019/6/13更新]

(誤) 赤字部分が「アナライザー」の「各タイプに対するコミュニケーションのポイント」

表2 医療機関における各タイプの傾向とコミュニケーションのポイント

タイプ	医療機関における傾向	各タイプに対するコミュニケーションのポイント
コントローラー	医師（特に外科系）や看護部長に多い。職位が上がるほどコントローラータイプが増える傾向にある	<ul style="list-style-type: none"> <li>結論から伝える</li> <li>一文を短くする</li> <li>感情を交えず、事実を伝える</li> <li>「相談」として持ちかける</li> </ul>
プロモーター	医療機関に最も少ない。事務職の経営企画や広報担当に多い	<ul style="list-style-type: none"> <li>「承認」する</li> <li>仕事の依頼時は「〇〇さんをお願いしたい」と名指しで伝える</li> <li>細かな指示を出さず、任せる</li> </ul>
サポーター	医療機関に最も多い。看護師、リハスタッフ（PT/OT/ST）、事務職に多い。内科系医師にも存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>頻繁に「承認」する</li> <li>期待を伝える</li> <li>コミュニケーション量を多くする</li> </ul>
アナライザー	医師、薬剤師に多い	<ul style="list-style-type: none"> <li>高圧的な態度に弱い<b>ため、柔らかな表現で伝える</b></li> <li>事実ベースで発言の根拠を伝える（感情的にならない）</li> <li>相手の専門性を尊重する</li> <li>「正しさ」で訴求する</li> </ul>

(正) 赤字部分が「サポーター」の「各タイプに対するコミュニケーションのポイント」

表2 医療機関における各タイプの傾向とコミュニケーションのポイント

タイプ	医療機関における傾向	各タイプに対するコミュニケーションのポイント
コントローラー	医師（特に外科系）や看護部長に多い。職位が上がるほどコントローラータイプが増える傾向にある	<ul style="list-style-type: none"> <li>結論から伝える</li> <li>一文を短くする</li> <li>感情を交えず、事実を伝える</li> <li>「相談」として持ちかける</li> </ul>
プロモーター	医療機関に最も少ない。事務職の経営企画や広報担当に多い	<ul style="list-style-type: none"> <li>「承認」する</li> <li>仕事の依頼時は「〇〇さんをお願いしたい」と名指しで伝える</li> <li>細かな指示を出さず、任せる</li> </ul>
サポーター	医療機関に最も多い。看護師、リハスタッフ（PT/OT/ST）、事務職に多い。内科系医師にも存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>頻繁に「承認」する</li> <li>期待を伝える</li> <li>コミュニケーション量を多くする</li> <li>高圧的な態度に弱い<b>ため、柔らかな表現で伝える</b></li> </ul>
アナライザー	医師、薬剤師に多い	<ul style="list-style-type: none"> <li>事実ベースで発言の根拠を伝える（感情的にならない）</li> <li>相手の専門性を尊重する</li> <li>「正しさ」で訴求する</li> </ul>

39頁 下から4行め

161頁 下から3行め

(誤) Patient Experience

(正) Patient eXperience